

異常気象と土砂災害の関係

行橋市立泉小学校 4年 落知 心芽

最近、テレビや新聞などでよく土砂災害のひ害情ほうを見ます。私はそのひ害が、年々、大きくなっているように感じて、とてもこわく思います。今回、土砂災害と異常気象の関係について調べました。

異常気象とは、普通ではない気象のことで、猛暑や冷夏や暖冬や大雨などがあります。その中でも特に大雨が土砂災害と関係が深いことが分かりました。梅雨、台風、短い時間に降るゲリラ豪雨によって土砂災害がおきています。最近では、梅雨によく大雨が降り、「数十年に一度」や「特別けいほう」をよく耳にします。

ではどのようにすれば、こういった大雨を減らすことができるのでしょうか。大雨は、地球温暖化がえいきょうしている可能性があります。まずは大雨を減らすために地球温暖化を止める必要があります。地球温暖化は、自動車から出る排気ガス、家庭の冷暖房や工場から出る二酸化炭素などの温室効果ガスが大気中にたまることにより起こっていきます。地球からの熱がガスに反射して、コンクリートやアスファルトにあたって大気が熱くなり、地球から熱が逃げきれず、海の温度も上昇し、地球温暖化になります。どんどん海水がじょう発し積乱雲が発達することで、線状降水帯ができ、集中豪雨になります。

私は異常気象と土砂災害は切りはなすことが出来ないと思います。土砂災害を完全に無くすことは出来ないけれど、私に出来る命を少しでも守ることについて考えました。

土砂災害から命を守るためには、土砂災害について知ることがすごく大事な事だと思います。ハザードマップで地いきの危険な場所を前もって知っておくことが大切だと思います。また、ハザードマップを見ながら家族と話し合う事も大切だと思います。自分の住んでいる場所の何が・どこが危険かや、家の近くにあるがけや山、地形などの様子、ひなん場所に向かう道など家族とゆっくり話し合う事、できれば一緒に歩いてみる事も良いと思います。

そして、防災グッズをじゅんぴしておく事も必要です。防災グッズの中身は、保存できる食べ物や飲み水、かい中電灯、薬、カセットコンロ、かんいトイレ、けいたいラジオ、日ごろから使う下着や着替えなどをすぐに持ち出せるようにじゅんぴをしたり、ねる場所に普段から眼鏡、靴を置いておくといざ災害がおきたときに便利だと思います。テレビなどで、「命を守る行動をとってください。」とよく見たり聞いたりします。そのような情ほうをいつでもとれるようにしておいたり、家のうら、近所にながけや山があるのであれば、危けんな場所からはなれた部屋にいるか2階に上がったりする、ひなん場所、防災グッズ、けいたい電話、充電器、家族等の連絡方法をじゅんぴしたり確かめたりする事が大切だという事に気づきました。土砂災害を原因とする異常気象を減らすため地球温暖化を止める必要があります。そのためには、行きたい場所が近くであれば車を使わず自転車や歩いていく、冷暖房の使用では適切な温度設定にする、一日家にいない日は使わないなど、有害なガスを減らすようにみんなが工夫をして生活していくと、地球温暖化、異常気象、土砂災害も少しは減っていくと思います。

私達の生活は身の回りに便利な物でいっぱいです。しかし、生活を見直さなければなりません。ゴミを減らす、物を大切に使う、植物を増やして切らないなど、一人一人毎日の生活で工夫すると土砂災害も減ると思います。

この作文を色々な人に読んでもらい、みんな協力し、地球から異常気象、土砂災害を少しずつ減らしていき、一人でも多くの人を苦しいひ害にあわないようにしたいです。